金澤町家が磨かれて若手作家のアトリエへ

金沢クリエイティブツーリズム実行委員会［石川県金沢市］

テーマ

遊休町家活用型共同工房創出による コミュニティ活性化

設立年月　2010年10月
メンバー数　12人
代表者名　坂本 英之
連絡先
〒920-0942
金沢市小立野5-11-1
金沢美術工芸大学坂本研究室
坂本 英之
tel　076-262-3531
fax　076-262-3679
e-mail　sakamoto@kanazawa-bidai.ac.jp
URL　http:// http://gallery.artgummi.com/

わたしたちについて

金沢市に点在しているアート＆クラフトに関する創造的な拠点等を巡る多様なツーリズム（パッケージツアーやオーダーメイドツアー）とそのサービス（コンシェルジュサービス）を来訪者に提供し、金沢での滞在を豊かなものとします。同時に、金沢21世紀美術館や金沢美術工芸大学等と連携を取りながら、アーティストや工芸作家の制作・生活を支援し、総合的に『創造都市』金沢の実現を市民セクター側から支援することを活動の目的にしています。

活動に至った理由や背景

金沢クリエイティブツーリズム実行委員会は、以下の2つの活動を中心に据えています。1つは、金沢市内に点在しているアート＆クラフトに関する創造的な拠点を巡る多様なツーリズムとそのサービスを来訪者に提供し、金沢の滞在を豊かなものとする目的を持った活動です。もう1つは、金沢21世紀美術館や金沢美術工芸大学、卯辰山工芸工房などと連携を取りながら、アーティストや工芸作家の制作･生活を支援し、総合的に「創造都市」金沢の実現を市民セクター側から支援する活動です。

前者の基本的な事業プログラムは、①金沢在住のアートや工芸の作家たちのスタジオやアトリエを期間限定で開放する「オープンスタジオデー」、②金沢の創造的な場所に専門家のガイドで訪れるパッケージツアー「アトリエ・建築訪問」そして、③訪問客の要望を伺い、作家と調整のうえオーダーメイドツアーを提供する「アートコンシェルジェ」の3つです。いずれも、普段は開放されていない場所に入れることが大きな魅力です。

後者の活動の一つとして、「町家共同アトリエ」創設の事業があります。遊休化している町家を借り受けて、アーティストがシェアし、金沢の重要な都市資産である「金澤町家」を蘇らせる活動です。金沢の大学でアートを学びながら、卒業後に使うことができるアトリエ空間がなくて金沢を去っていく若きアーティストの卵たちに、インキュベーションの場を提供し、かつ金沢の個性である「金澤町家」をオルタナティブスペースとして継承・活用していくことにより、創造都市の潜在的魅力により磨きをかけています。更に、これらの活動により、アートと地域が密接に連携したコミュニティの醸成を目指しています。

実行委員会のメンバーは、大学教員や建築家、美術館キュレーター、旅行代理店勤務者、観光ボランティア（まいどさん）、英語教師（英国人）など多彩です。また、協力者及び協力団体としてはNPO法人金沢アートグミ、NPO法人CAAK（Center of Art and Architecture Kanazawa）、NPO法人KAPO（金沢アートポート）、NPO法人金澤町家研究会などの市民活動団体があります。

活動内容

2009年にNPO法人金澤町家研究会で町家悉皆調査を行った際、元染物店だった町家（敷地面積100坪）の高齢居住者にお話を伺う機会がありました。近い将来、集合住宅に移住し、その後の借り手あるいは買い手がつかない場合、取り壊す意向でした。周囲の市街地は高齢者が多いことから、新たな人の動きが見られる拠点の創出が期待されていました。本計画地の近隣には、寺院をアート活動の場（イベントやレジデンス）として活用する動きが見られることから、染物店であった空間の特色を活かして、アート＆クラフトの若手作家を育成するインキュベーション施設として蘇生することが相応しいと考えました。しかも、市民の知恵と資金力を結集したプロセスを取ることにより、市民セクターの育成も狙うことができます。

活動の進捗状況

今年度の事業プログラムは「マチヤイロ」、「おくりいえ」そして「町家共同アトリエ改修コンペ」へと進展しました。

6月：構想策定ワークショップ（毎週火曜7・8限目、学生グループ参加）
8月上旬：入居募集チラシ配布開始
8月20～28日：オルタナティブアートネットワーク「マチヤイロ」展開催
9月17、18日：おくりいえプロジェクト（町家巡遊（9/23～）のプレイベントとして行われる）
10月下旬：契約完了、松本さん引っ越し開始
11月上旬：アトリエ入居開始（11/1）/ 松本さんマンション入居
12月下旬：「町家共同アトリエ改修コンペ」概要発表（金沢アートグミHP、地元大学等）
1月28、29日：コンペ参加者による「松本家実測ワークショップ」開催
3月22日：コンペ最終選考（3月6日に締め切った作品は地元審査員による選考で最優秀案を決定し、表彰式等を4月以降に行った）

昭和７年に建てられた元染物店、２階工房には広々とした板の間が広がる。

「マチヤイロ松本染物店展覧会」の会場風景

オルタナティブ アート ネットワーク「マチヤイロ松本染物店展示会」の概要

オルタナティブ アート ネットワークとは、既存のものごとと取ってかわる新しいものごとをアートという方法で生み出し、その結果生まれる創造的な場のネットワークを構築していく試みで、現代アートの文脈と関連する要素を多く内包しています。

NPO法人が運営している金沢アートグミギャラリーでは、金沢市芳斉地区にある松本染物店の蔵の中にあった長持、箪笥、衣装箱と工房にあった染め型枠、染色道具や材料と、廃業する前に生産されていた小紋をインスタレーションとして再構成し、染物店の記憶を呼び戻す展示を試みました。

そしてその長持、箪笥、衣装箱と工房にあった染め型枠、染色道具や材料の持ち帰りを観客に許可する新しい展覧会の形式を試み、ほぼ全てが新しい所有者の手に渡りました。既存のギャラリーや美術館と取ってかわることのできる、商業主義でも権威主義でもない新しい展示の在り方を探りました。

松本染物店では、金沢美術工芸大学美術科の学生が、既存のギャラリーや美術館への展示を前提に作られたホワイトキューブに取ってかわるプライベートな日常の生活空間の場で展示計画を試みました。

学生達は、日常の空間をアーティスティックな非日常的な場へと変容させる作品や染物店内にある物や材料を取り込んで、その場でしか成立し得ないサイト・スペシフィックな作品制作と展示を行いました。

かつて銀行だったスペースがアートを発信する場に転用されている金沢アートグミギャラリーと、今回の展覧会後に制作スタジオとして活用されることになった松本染物店が連携した展示計画は、アーティストがイニシアティブを発揮して、アートと社会との新しい関わりを表現する場としてのオルタナティブ・スペースの意義と可能性を表現しました。

また、日常生活のうちに新しい表現の可能性を探ることは、人間性の再生をめざし、アートと社会の関係性を問う最も先端的な動向のひとつであるリレーショナル・アートの概念にもつながっています。

伝統と革新が共存する金沢で行うオルタナティブ アート ネットワークの試みは、ローカルな場でグローバルなアートによる関係性を構築していくことをめざして、金沢から新しい社会とアートの在り方について提示していくことを意味しています。

「マチヤイロ松本染物店展覧会」ポスター

おくりいえプロジェクトの概要

年に約270件もの町家が姿を消している金沢。その町家の最期を彩り、見送りたいという思いからスタートしたプロジェクトです。取り壊しが決定した町家を「送る」、新たな住まい手のために「贈る」、2つの「おくる」があります。今回は後者の「贈る」となり、200人近くの参加者に雑巾持参でご参加いただき、みんなでぴっかぴかに松本染物店をお掃除して、内部に眠る気に入ったモノを、持ち帰っていただきました。

○当日の様子、参加者の属性

初日朝から市内の方を中心にたくさんの来場者がありました。中には、金沢の町家の魅力を肌で感じたいと、名古屋、新潟の糸魚川、福井の鯖江等、遠方からの参加者もみられました。各々、町家の魅力に触れ、感激するとともに、熱心に掃除に取り組んでいました。ほしいモノを熱心に探している姿も多くみられました。

「おくりいえプロジェクト」で参加者による掃除風景

「おくりいえプロジェクト」で親子連れの参加者達

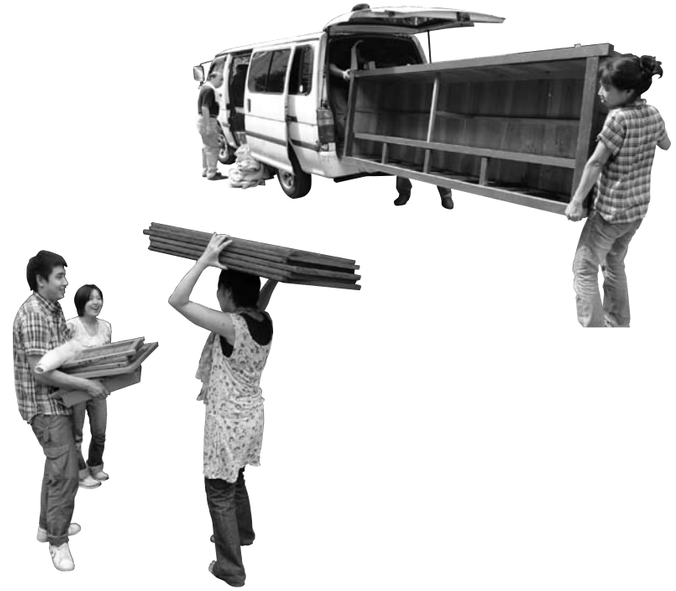
毎回、老若男女幅広く、様々な方々が参加しました。一人での参加や、友人や恋人同士での参加もありましたが、親子や家族といった大勢での参加も目立ちました。

○エピソード

よく聞かれるのが「お気に入りのモノが重なってけんかになったりしないですか?」という声です。これに関して言えば、今まで一度もけんかになったことはありません。何しろ、雑巾持参で掃除に参加していただけるということ自体素晴らしいことです。毎回ステキな参加者が集まってきているように思います。それと、人の好みは千差万別。ほしいモノは簡単に重なったりしないので見ていて非常に興味深いです。

帰り際、掃除して心もきれいになった喜びと、お気に入りのモノをもらえる喜びとで、参加者の素晴らしい笑顔を見ることができます。運営側からすると毎回これが最大の楽しみです。建物がぴっかぴかになり、参加者も笑顔で、運営側もうれしいです。これがこのプロジェクトの神髄であるように思います。

親子や家族での参加が増えていると書きました。毎回のように参加される子供連れのご家族も多く、理由を聞くと、子供のお掃除の教育の場として最適との声。回を重ねるごとに子供たちの掃除の腕は上達しています。雑巾のしぼり方すらわからなかった子供たちが今では、率先して掃除をしています。逆に大人たちのほうが、お宝探しに夢中で、子供たちに「ちゃんと掃除しなさい」と言われている姿も見受けられておもしろいです。



お掃除のあと、皆さん、思い思いのものを持って行きます。

もうひとつよく聞かれることがあります。「みんな知り合いなんですか?」と。参加者はみんな仲が良い。といっても最初から知り合いという訳ではありません。一生懸命掃除していると、その空気が移り、どんどん広がり、心もひとつにつながっていきます。さらに、興味深いモノが出て来ると、それについての話が始まります。例えば、コロコロアンカー。お年寄りは知っていますが、若者はそれを何に使うかわかりません。そこで、世代を超えた会話が始まり、広がってゆく。そんなこんなで、いつの間にかみんな仲良しになっています。

町家共同アトリエ改修コンペの概要

町家共同アトリエにおいて学生限定の改修設計コンペを行いました。これからの町家改修のありかたを考えるというものです。

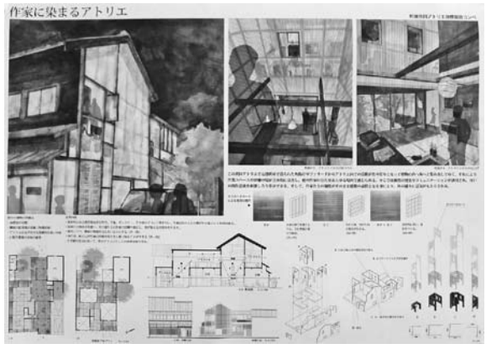
○町家共同アトリエが生まれるまで

高齢でひとり住まいだった所有者は、広すぎて寒さ対策が十分でない町家からマンションへの住み替えを希望されていました。そこで、定期借用で活用させてもらうことを提案し、共同アトリエが実現しました。

直前まで所有者が住んでおられたので、まずはそのままアトリエとして活用を始めました。現在、大きな町家を5～6グループが数部屋ずつ区分して、工芸や家具、アートの制作工房として共同利用しています。

○学生限定の改修設計コンペ

アトリエとして機能し始めた2012年1月、学生の自由な発想に期待し、学生限定の改修設計コンペを行いました。3月の締切には7組の応募があり、厳正な審査の結果、最優秀賞1案、優秀賞3案が決定しました。4月に入り、その授賞式を行いました。今後は、最優秀案を基にワークショップを重ね、改修を実現させていきたいと考えています。



改修コンペでの最優秀作品

今後の予定

金沢には加賀藩以来の歴史的町並みと伝統が生き続いていると同時に、金沢21世紀美術館の開館に見られるような、新たな文化を発信するエネルギーが存在しています。
活用が容易ではない大型町家のリバースモーゲージの事例として、使い手（アート＆クラフトの若手作家）の評価に耐え得るものにしていく方策を練らねばなりません（コストパフォーマンスや地域の発信力等）。改修ワークショップを行う資金を集めるための基金の創設が急がれます。
今後は「町家共同アトリエ改修コンペ」による成果を用いた改修を実施し、メディアを使って活動を広報すると共に、町家とアートを結びつけたコミュニティ再生への議論の場を醸成し、活動家のプラットフォームを構築したいと思います。
市内の他の遊休施設の活用（まちなかのビル、郊外の空き倉庫・店舗などのリノベーションやコンバージョン）と連携することにより、市全体に「共同アトリエ」を媒体にするフィールドが広がりはじめました。また、金沢市が開設した「まちづくり市民研究機構」の市民メンバーとの連携が始まり、市民主体のまちづくり意識の高揚を図っています（まずは、市民主導のまちづくり活動を行っている先進事例を学び始めました）。さらに、金沢21世紀美術館との連携も始まっています。美術館が企画するアートとまちづくりに関する「21世紀塾」（2012年1・2月開催）と連携し、世界のアートを活かしたまちづくりの事例研究や、ワークショップによるアートまちづくりエキスパートの養成などに参加していく予定です。
事業実施体制では、先述の実行委員会の他、アーティストの情報収集・情報発信に関しては「NPO法人金沢アートグミ」及び「金沢美術工芸大学」と連携し、町家の改修及び有効活用に関しては「LLP金澤町家」や「NPO法人金澤町家研究会」と連携することにより、実効性のある活動の展開を目指しています。また、コンペの実施により、参加学生との連携で新たに改修チームが生まれました。今後の改修ワークショップの主要メンバーとしての活躍が期待されます。

元染物店の前、「おくりいえ」での風景

作家たちの需要に応えて共同アトリエとして活用される予定のもう1棟の町家は、2012年7月入居の段階に入っています。廃業された建具店の町家を借り受けて共同アトリエとして提供します。その時の条件として、構造や雨仕舞い、上下水道、ガスなどの生活インフラの基本部分以外は、できるだけ現状のままの状態で借り受けています。空間的にアーティストの想像力を喚起するためであると同時に、家主の負担を軽減し、廉価な家賃へと繋げるためです。その代わり、アーティストが創造的に自由に造作を変えても良いこと、かつ退去時の現状復帰も不要としています。
また、わたしたちは「クリエイティブツーリズム」、「町家共同アトリエ」に加えて「チャリdeアート」を展開しています。これは、オリジナルでおしゃれな自転車を貸し出して、市内に点在する創造的な場所を訪れてもらおうという事業です。町家共同アトリエはアーティストの活動拠点であるとともに、ときにはオープンスタジオとして、またレンタサイクル（コミュニティサイクル）の貸し出し拠点として、まちなかのネットワークを創り出します。
このように、これからもわたしたちは金沢の都市空間をフィールドに、創造的な都市資産を使って独自のアートシーンをつくりながら、まちなかの新しいコミュニティのあり方を探っていきたいと考えています。